第 2 回放射光戦略ワーキンググループミーティング　議事要録

日時：2007 年 10 月 25 日（木）16 時 40 分～18 時 40 分

場所：管理棟特別会議室

出席者：外部委員（雨宮、尾嶋、坂田、高田、村上、三木、小杉）

内部委員（若槻、春日、野村、河田）、下村所長

書記（宇佐美、山崎）

オブザーバー（北島、宮本）

議題：１．議事録の公表の仕方について

２．7 月 19 日第 1 回放射光戦略 WG で指摘された項目の整理

３．施設長裁量経費　研究費助成募集

４．Three-Tier System for 5～10 years（中期計画）

５．PF 懇談会メタユーザーグループ

６．PF-ISAC と分科会

７．インドビームライン

８．オーストラリアビームライン

９．その他

配付資料：議題用 P.P.資料、「第一期 BL 統廃合後のグループと BL 対応」、「ビームラインに関する検討」EXCEL 資料（取り扱い注意）

１．議事録の公表の仕方について

本戦略 WG の議事録の公表の仕方について議論があった。若槻施設長よりこの WG での議論はなるべくオープンにしたいという意向があり，議事録をホームページ等で公開することの是非，その場合に発言者名を記載するかどうかについて議論が行なわれ，議事録については以下のような方針で公表することにした。

◎外部に公表する議事録は，議論の要点を簡潔にまとめたものとする。

◎発言者名が入ったものは，内部でのみ閲覧ができるようにする（パスワード付き）。

２．7 月 19 日第 1 回放射光戦略 WG で指摘された項目の整理

若槻施設長より，前回 WG で議論された BL 新設・統廃合の中期戦略と Areas of Excellence. およびビームライン統廃合の具体案についてのサマリーがあった。BL 統廃合についてはその後の進行状況について，また指摘された事項のうち人材確保や予算獲得等については検討が進んでいることが説明された。

３．施設長裁量経費　研究費助成募集

若槻施設長より，PF 職員を対象とする個人研究に対する助成制度が開始されたことについて説明があった。

４．Three-Tier System for 5～10 years（中期計画）

若槻施設長より，PF の 5～10 年の計画として「Three-Tier System」についての説明があった。概要は以下のとおり。

・ISAC の提言を受け，PF 内部で議論し作成。AOE だけに集中すると抜ける部分があるという指摘があり「３本柱」とした。

１．Areas of Excellence(AOE)：重点を置くサイエンスの分野

２．Light source and Beam Line Developments：技術開発

３．Facility Operation：施設の運営

５．PF 懇談会メタユーザーグループ

若槻施設長から，PF 懇談会メタユーザーグループについて説明があった。

・現在 22 あるユーザーグループを 5 つの「メタユーザーグループ」にまとめた。

・メタ UG の代表者はメタ UG の意見を集約し、PF の中･長期計画について執行部と定期的に議論する場（メタ UG 代表者会議）を持つ。

・11 月 13 日に第 1 回メタ UG 代表者会議を開催予定。PF 側は、執行部，放射光科学系グループリーダー、光源系グループリーダー代表（前澤教授）が参加。

６．PF-ISAC と分科会

若槻施設長から，PF-ISAC および分科会について説明があった。概要は以下のとおり。

・親委員会は 2008 年 3 月 4,5 日に開催。

・分科会は、電子物性とメディカルサイエンス。

この後，議題４，５，６に関する議論が行なわれた。議論のサマリーは以下のとおり。

◎AOE は今後 PF が重点をおくべきサイエンス。AOE から外れる分野は，operation のしくみを工夫することによって補う。

◎PF としては 1(AOE)だけではなくて、2(R&D)と 3(facility operation)についてもきちんとしたストラテジーを出すべき。

◎11/13 のメタ UG 代表者会議には，以下の資料を用意し，中期目標の方向性について意見を聞く。

・ビームライン検討の表と中期計画三本柱の何番が対応するかという表を作成

・中期計画それぞれの項目について１枚のスライドを作成

７．インドビームラインについて

若槻施設長から，PP 資料 P.4 を元に，インドビームラインについて説明があった。

・7 月 24 日に Prof. Rao (Chair of the Science Advisory Council to the Prime Minister), Prof. Milan Sanyal らが KEK 訪問、LOI に調印。

・８月安倍前首相訪印の際、この LOI について共同声明で言及し，外務省 HP に掲載されている。

・MOU を結ぶ準備作業が進行中。PF 側担当は野村。

・対象は BL18B を想定している。インド側はすぐに始めたい，何名か人員を PF に常駐させたい意向。

・将来的には他のアクティビティ（タンパクなど）も考えている。

この後議論が行なわれた。議論のサマリーは以下のとおり。

◎今の PF にないサイエンスの展開（液界面の scattering），人員の常駐，国際協力（外交的な面も含めて）など，メリットは多い。

◎現状の 18B のオプティクスを使って実験を始めるのであれば PF の負担は少なく，始めてみるのが適切。ただし，負担が増えることがないように注意する必要がある。

８．オーストラリアビームラインについて

若槻施設長から，オーストラリアビームラインについて説明があった。

・9 月 18 日に BL の Steering Committee を開催した。

・MOU は 2008 年 12 月まで、その後 BL は撤去して PF に返還することになっているが、オーストラリア側としては暫くの間、BL-20B を継続して使用したい。

・Australian Synchrotron(AS)が稼動を始めたので、海外での放射光実験の資金がなくなるが，オーストラリア側はサイエンティスト１名が常駐できる資金を探す意向。

・その進行状況に関して 11 月 2 日に AOF（台湾）で非公式打ち合わせをする。

・他分野でも、共同研究体制を維持、もしくは新しく始めたい。(構造生物、Quick XAFS)

・publication 数は PF の中でダントツに１位。Productivity が高いので、AS 稼働後も使いたいと言う意向。

この後議論が行なわれた。議論のサマリーは以下のとおり。

◎PF としては将来的には BL20 周辺の再開発（BL15 に SGU-BL を作った後の現 BL15 の移転先）をするという意向はあり，そのことはオーストラリアにも伝えてあるが，現状では 2008 年 12 月に実施できる見通しがない。これだけの activity があるという現状があり，オーストラリア側も使いたいという意向があるので，PF としては歓迎する方向。

※次回戦略 WG は，今回と同様運営会議の後に行なうこととした。次回は 12 月の予定。